

# 研究施設昭和53年度報告

## I 運営会議

6月13日、第1回運営委員会、於学部第二会議室、昭和52年度事業報告、決算報告、昭和53年度事業案、予算案につき討議承認、出席者施設長羽田、運営委員堀井、小林(マ)、鈴木(良)、岩井、木村、竹内、田中、田巻、布谷、中村、施設員渡辺、赤羽、事務局水谷、徳武、古平、池田(順不同、敬称略)。

10月5日、第2回運営委員会、於志賀施設演習室、施設宿泊者利用心得一部改正、昭和55年度施設概算要求につき討議承認、概算要求に関するかやの平分室建設予定地の視察、出席者施設長羽田、運営委員堀井、小林(マ)、岩井、木村、吉岡、松沢、高野、馬場、田巻、布谷、中村、施設員渡辺、赤羽、宮下、事務局北沢、田子、山本、上条、徳武、勝野(順不同、敬称略)。

## II 施設管理、充実

展示館の開館5月1日より11月25日まで毎日。ロックガーデン一部植物の植えかえ、中央階段つけかえ、雪どけがおそく、植物の生育状態は良好であった。景観展示箱二個作製、設置した。自然観察路は6月から11月まで質問板設置、雪どけの遅れが著しく、全線があらわれたのは6月に入ってから、大型説明板や案内板の腐蝕がいちじるしくなり、山ノ内町当局によって一部のつけかえ修理が行なわれた。

## III 印刷物

パンフレット、5,000部、展示館入口にて無料配布、冬季に新しいパンフレットの編集を行ない、全面的に改訂した。次年度より一新されよう。一般参観者の増大に対して、パンフレットの部数不足がいちじるしい。

研究業績第16号は800部印刷し、各方面に配布。

「長池の四季」は5月より10月まで10回発行。各号300部印刷、観光協会を通して各旅館、寮等に配布、好評であった。

## IV 自然探勝会、説明会

7月8月毎日午後1時より2時の間、希望者を集めて野外説明会を行なった。322名参加者あり、観光協会計画による自然探勝会は8月に4回、説明を担当した。125名参加者があった。6月から8月にかけて中・高校生の団体参観が増大し、10団体の説明申込みがあった。

## V 自然教育実習

本年より新しく2年次生全員を対称とした教育養成課程学生合宿研修を本施設で行なうこととなり、その中へ本施設の自然教育実習を含めることとなった。6月22日より8月31日まで10班にわかれ各班3泊4日の日程により実施された。各教科教官、事務局職員多数の協力を得、314名の学生と39名の教官並びに事務職員が参加25ページのテキストを作製し全員に配布。

昭和53年度理科教材単位取得学生の自然教育実習は、2年次生は上記合宿研修をもってこれに当て、3年次生以上で未了のものについて10月8日~11日に1泊2日3班で行なう。94名が終了。

## VI 大学公開講座

8月1日より4日まで、3泊4日で「自然保護」講座を開いた。15名参加、25ページのテキスト作製配布。

## VII 施設利用状況

宿泊施設の利用者は、のべ2,529名。このうち学部関係利用者は、のべ1,567名である。6月から9月まで

の利用者（夏季）は、のべ1,426名。4月～5月、10月～3月の利用者（冬期）は、のべ1,567名である。主な利用目的と利用者を、表1に示す。

展示館、自然観察路の利用状況は、展示館入口に記入名簿をおいて調査した。この結果を表2、3、4に示す。記帳した参観者の総数は、26,397名で、前年より3,300名ほど増加した。めだった特徴としては、団体の数が増加したこと、とくに大学生や一般家族づれなどの小団体が増加した。県内者は、個人・団体ともに減少している。また、団体の参観数は、前年にくらべて5月が急激に増加し、10月が激減した。なお、記帳の状況を見ると、参観者の3分の1は記帳していない。したがって、全参観者数は、8万名を越えるものと思われる。

表1

施設の主な利用目的と利用者	
（一般研究・研修）	
6月1～2日 動植物の生態自然観察研修	信州大学教育学部羽田健三 他27名
7～11日 統計物理学の研究ゼミナール	名古屋大学工学部中野藤生 他18名
9～11日 I B P特別地域内での土壌調査	玉川大学農学部竹島征二 他5名
7月14～19日 生態学野外実習	東京都立大学理学部北沢右三 他15名
8月12～13日 松本深志高校博物館自然研究講習会	松本深志高校柴野武夫 他22名
9月4～5日 信州大学教育学部養護学校生活訓練	丸山英副校長 他12名
10月21～22日 志賀高原自然観察	信州大学教育学部松沢邦彦 他21名
28～30日 鳥類の Habitat Symposium	信州大学教育学部中村登流 他28名
11月11～12日 野尻湖発掘の地質検討会	信州大学教育学部赤羽貞幸 他20名
12月27～28日 志賀高原における雪の研究	信州大学教育学部岩井邦中 他4名
1月27～28日 長野盆地の形成史に関するゼミナール	信州大学教育学部斎藤豊 他15名
2月3～7日 志賀高原野生ニホンザル総合調査	京都大学霊長類研究所和田一雄他17名
18～21日 極地方式の实地研究	宮城教育大学高橋金三郎 他9名
（教育学部学生実習）	
6月22～7月5日 合宿研修	136名
7月19～28日	95名
8月22～31日	82名
10月8～11日 理科教材志賀実習	94名
（卒論研究）	
1月20～21日 志賀高原の雪の研究	教育学部理科地学藤井洋志・小林勤・中島直人
2月3～4日	〃
17～18日	〃
（常時利用者）	
志賀高原の湖沼の研究	市村吉正
低温室利用	入来義彦（信州大学教育学部）
I B P実験室利用	岩井邦中（信州大学教育学部）

表2 来館団体の種類

	県 外		県 内		計	
	団体数(%)	人 数 (%)	団体数(%)	人 数 (%)	団体数 (%)	人 数 (%)
小 学 校	31(11.7)	1,085( 5.4)	0( 0.0)	0( 0.0)	31(10.8)	1,085( 5.2)
中 学 校	58(21.9)	8,827(44.3)	5(23.8)	474(47.9)	63(22.0)	9,301(44.4)
高 等 学 校	52(19.6)	5,917(29.7)	4(19.0)	96( 9.7)	56(19.6)	6,012(28.7)
大 学	40(15.1)	860( 4.3)	5(23.8)	126(12.7)	45(15.7)	986( 4.7)
一 般	84(31.7)	3,249(16.3)	7(33.3)	293(29.6)	91(31.8)	3,542(16.9)
計	265(100.0)	19,937(100.0)	21(99.9)	989(99.9)	286(99.9)	20,926(99.9)

表3 団体の県内外の比率(%)

	団 体					計
	小 学 校	中 学 校	高 等 学 校	大 学	一 般	
県 内	0.0	7.9	7.1	11.1	7.7	7.3
県 外	100.0	92.1	92.9	88.9	92.3	92.7

表4 月別参観者数

月	個 人 (%)	団 体		計
		団 体 数(%)	人 数 (%)	
5	323( 5.9)	33(11.5)	6,183(29.5)	6,506(24.6)
6	288( 5.3)	33(11.5)	2,217(10.6)	2,505( 9.5)
7	1,031(18.8)	95(33.2)	8,116(38.8)	9,147(34.7)
8	3,174(58.0)	55(19.2)	1,698( 8.1)	4,872(18.5)
9	305( 5.6)	53(18.5)	2,194(10.5)	2,499( 9.5)
10	311( 5.7)	17( 5.9)	518( 2.5)	829( 3.1)
11	39( 0.7)	0( 0.0)	0( 0.0)	39( 0.1)
計	5,471(100.0)	286(99.8)	20,926(100.0)	26,397(100.0)